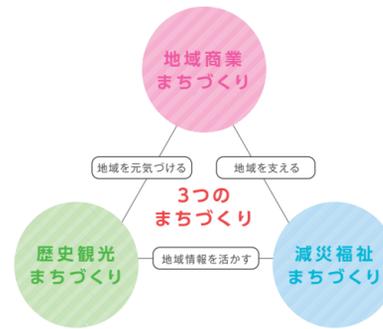


このまちの未来を、 地域と一緒につくりあげていく。

名古屋学院大学COC事業「PROJECT&N」は、3つのまちづくりアプローチを通して、
キャンパスのある名古屋市、瀬戸市を地元の皆さんと一緒に盛り上げていく、
地域との連携事業です。

名古屋学院大学が取り組む 「3つのまちづくり」

「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の3つのまちづくり
アプローチから、地域の課題を解決していきます。
それによって、名古屋市、瀬戸市の活力を取り戻し、
持続性の高い地域づくり、
すなわち「地域の質(Quality of Community)」の向上を図ります。



地域商業まちづくり

商学連携ロールモデルの展開による経済効果の増大を促進

- 学生参加による地域商業活性化(商店街連携事業、地域イベントのサポート)
- 域外居住者にとって魅力的な名古屋市熱田区の地域ブランドを創出
- 学生が運営するカフェ「マイルポスト」を核とした大学周辺の人的交流促進 等



地域の活力を牽引する
地域商業まちづくり

歴史観光まちづくり

歴史の掘起こしや地域資源の発掘による地域愛の育成と歴史観光の推進

- 地域資源のコンテンツ(アニメキャラクター等)開発による若年層への地域PR
- 外国語学部生を中心とした大学周辺地域の英語観光案内による観光産業活性化
- 地域資源の活用方法や、訪問客に向けたツーリズムの提案 等



歴史を継承し観光を育む
歴史観光まちづくり

減災福祉まちづくり

地域連携による学生パワーを活かした災害に強いひとづくり・まちづくり

- 東日本大震災の経験を、名古屋・瀬戸での減災防災活動に活かす取組
- 都会の中でスポット的に高齢化が進むエリアでの孤立を生まない事業
- 健康運動教室や体操普及活動で地域の多世代交流を促進 等



暮らしの基盤を底上げする
減災福祉まちづくり

地(知)の拠点整備事業

COCとは?

※Center Of Community

大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域
貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や
情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の
機能強化を図ることを目的としています。

「地(知)の拠点整備事業」 大学COC事業 PROJECT & N

WHAT'S「PROJECT&N」

このまちの未来のために、名古屋学院大学にできること。
名称の「&N」は名古屋学院大学のNのこと。
私たちが地域にもっと近づきたい、力をかけあわせ、さらに盛り上げて
いきたい。その意思を表しています。



主な地域連携活動

<p>地域商業 まちづくりカフェ 「マイルポスト」</p> <p>焼きたてパンやフェアトレードコーヒー、ランチが人気の学生運営のカフェ。各種イベントの企画・運営にも携わり、日比野商店街の一員として活躍しています。</p>	<p>地域商業 名古屋学院大学 みつばちプロジェクト</p> <p>2010年春より本学屋上を利用した養蜂を始動。探偵イベントや商品販売を通して、季節ごとに変化する蜜の味を紹介し、生態系を感じるまちづくりを推進します。</p>	<p>地域商業 神宮前商店街 「朝日市」応援事業</p> <p>熱田神宮前商店街・あつた宮宿会と協力し、「あつた朝日市」を実施。商店街の活性化を目指し、各商店を広報するチラシ作成等の活動に取組みます。</p>	<p>地域商業 熱田ブランド 戦略</p> <p>名古屋市熱田区と連携し、熱田の歴史や文化、魅力を次世代へ引き継ぐ「熱田ブランド」の確立に取組みます。</p>
<p>地域商業 手羽先一丁目一番地 ブランド事業</p> <p>「手羽先」発祥の地、熱田区。金山商店街では、多くの飲食店にて「手羽先」が提供されています。手羽先の聖地としてのブランド化を促進していきます。</p>	<p>地域商業 ものづくりによる 商店街活性化事業</p> <p>「ものづくり文化の道」エリアに位置する円頓寺本町商店街でのクラフトマルシェの発展に向け、学生の視点を取入れた活性化方策を検討します。</p>	<p>歴史観光 「陶のまち」交流促進 プロジェクト</p> <p>名古屋圏に広がる陶産地、瀬戸/美濃、常滑などで創られる陶磁器の美を追究し、陶磁器産地の文化や産業資源を活かした交流を促進する事業を展開します。</p>	<p>歴史観光 project758</p> <p>熱田区の名所や名物から生まれたオリジナルのアニメキャラクターや、動画放映やラジオ放送、イベント等を通して、多くの視聴者に熱田区の魅力を発信します。</p>
<p>歴史観光 英語ツアーガイド</p> <p>外国語学部生を中心とした観光案内プロジェクト。熱田神宮や白鳥庭園の英語版ガイドの作成に取組み、外国人旅行者に熱田区の魅力を発信します。</p>	<p>歴史観光 多文化共生まちづくり プロジェクト</p> <p>外国語学部・国際文化学部の学生によるアテンドで、名古屋市内のエスニック料理店等を巡るツアーを実施。より多くの人に「多文化共生」の魅力を伝えます。</p>	<p>減災福祉 Connection Of Community</p> <p>学生団体「Connection of Community」が、南熱田荘での自治会インターンシップでの学びを通して、熱田区孤立を生まない地域づくり事業の推進に努めます。</p>	<p>減災福祉 減災福祉まちづくり プロジェクト</p> <p>大学生自らが減災啓発プログラムを組み立て、地域で実施し結果を還元しています。</p>
<p>減災福祉 LINKS(SNSを活用 した減災まちづくり)</p> <p>SNSを活用した減災まちづくりを展開するため、Twitterによる災害情報発信の防災訓練やIT講習会等、地域住民を対象に学生が中心となって継続的に取組んでいます。</p>	<p>減災福祉 せとっこ体操</p> <p>スポーツ健康学部の学生が考案したせとっこ体操。楽しいリズムの体操を通して自然と笑顔がこぼれ、幅広い世代の健康増進と、コミュニティの形成を促進します。</p>	<p>減災福祉 健康運動教室</p> <p>スポーツ健康学部の教員と学生がその専門性を生かし、地域住民の「健康の増進」を目指した運動プログラムを実施します。</p>	<p>減災福祉 地域防災支援隊</p> <p>2016年4月に発足。学生の若い力で地域を活性化することを目標とし、熱田消防署の支援のもと、熱田区内の防災事業や消防団行事での住民サポート等に取組みます。</p>

名古屋学院大学(日比野学舎) 社会連携センター
〒456-0062 名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号
Tel. 052-678-4085 Fax. 052-682-6813

「地(知)の拠点整備事業」
大学COC事業
PROJECT & N 詳しいお問合せは、
renkei@ngu.ac.jp

「地域の質」を高める
「地」域連携・「知」識還元型まち育て事業



NAGOYA&SETO
このまちの未来のために
今できること。

STUDY 4年間の学びのSTEP

COCC人材育成目標

- ①高いコミュニケーション能力を有し、
- ②社会の課題を主体的に発見・解決できる、
- ③地域を愛する良き市民、良き職業人を育成します。

学びの特長

「地域を学び、地域の課題を解決する」という目的を達成するために、入学して間もない1年生から4年生に至るまで、学年進行に応じて教育プログラムを進展させる「段階発展型カリキュラム」を構築しています。また、地域での「インターンシップ」や「課外活動」ともリンクさせることで、より実践的に楽しみながら地域と交流し、自己成長できるプログラムとなっています。

「地(知)の拠点整備事業」
大学COCC事業
PROJECT & N
NAGOYA&SETO
このまちの未来のために今できること。



STEP 1 まちづくり提言コンペ

すべての学部1年生を対象とした全学生教員参加型教育イベントです。新入生が早い段階からキャンパス周辺地域に愛着を抱くようにすること、また課題発見能力や提案力の育成を目的としています。

基礎セミナー
全学部共通の基礎セミナーテキストに、名古屋市・瀬戸市の地域課題が掲載されており、全1年生がその内容について考えます。また、基礎セミナー担当教員の指導のもと地域の「まち歩き」を行い、まちの様子を肌で感じながら地域の課題にふれます。

公募
「基礎セミナー」で地域について学修した後、「まちづくり提言」の公募をします。学生は「地域課題を解消し、地域活性化を実現するためのアイデア」というテーマにもとづき、提言レポートを作成します。

選考
応募のあった「まちづくり提言」を、学内で選考。その後、名古屋市熱田区/瀬戸市の行政職員が協議し、優秀な作品が選出されます。

表彰
優秀なレポートを創作した学生には、名古屋市熱田区/瀬戸市から直接表彰状が贈られます。

STEP 2 課題解決型授業(PBL)

全学生が履修できるNGU教養スタンダード科目に「地域理解」分野を新設し、3つのまちづくりについて学ぶ7科目を開設。地域での実践を通して、現場重視の調査・分析・提案を行います。また、これらの科目は、リーダー格の受講生が継続履修できる「スパイラル型学習」となっています。

〈課題解決型授業一覧〉

地域商業	歴史観光	減災福祉
まちづくり学	まちづくり学	まちづくり学
まちづくり演習	まちづくり演習	まちづくり演習
上級まちづくり演習	上級まちづくり演習	上級まちづくり演習

STEP 3 地域志向型科目

既存のNGU教養スタンダード科目や各学部の専門科目において、地域について学び研究する科目を増やしていきます。学生は、課題解決型授業で学んだ地域の課題を、各学部の教育カリキュラムにおいても引き続き学修することができます。

地域志向型科目一覧(2017年度)

- NGU教養スタンダード**
ボランティア学、ボランティア演習、基礎セミナー、地球科学概論、地球物理学概論、地球環境学 等
- 経済学部**
経済演習、政策演習、都市経済学、欧米経済論、地域政策概論、地域計画論、地域活性化研究、観光文化論 等
- 現代社会学部**
地域社会学、経済社会学、観光まちづくり論、ひとまちづくり論、地域コミュニティ論、日本経済論 等
- 商学部**
マルチメディア表現、情報社会学、情報ビジネス論、流通論 等
- 法学部**
リーガル・フィールドワーク、法学・憲法入門 等
- 外国語学部**
ホスピタリティ論、観光文化論、ホテル業研究、英語プロジェクト 等
- 国際文化学部**
国際文化理解実践論、国際協力実践論、国際協力演習、フィールドワーク、コミュニケーション中国語 等
- スポーツ健康学部**
地域スポーツ論、スポーツ経営管理学、スポーツ社会学、生涯スポーツ論、健康レクリエーション実習、こどもスポーツ教育論 等
- リハビリテーション学部**
地域リハビリテーション演習、ヘルスプロモーション論、地域理学療法学 等

STEP 4 地域フォーラム

学部教育・研究の成果を地域に還元する全学生教員参加型イベントです。3・4年生の時に所属する演習(ゼミナール)をベースに、地域のステイクホルダー(市民・行政・企業・NPO等)と成果を共有します。このイベントは、すべての学部で開催する予定です。

地域インターンシップ

本学キャリアセンターが取り組むインターンシップ受け入れ先のうち、名古屋・瀬戸を基盤に活動する企業や行政等との連携を強化。「段階発展型カリキュラム」で学んできた学生が、地域インターンシップに参加することで地元企業の魅力や地域で働くやりがいを発見し、卒業後も地域で活躍する人材を育成します。

地域課外活動

本学学生支援課がサポートする課外活動とのつながりを深め、授業以外での地域活動へ学生が自主的に取り組んでいけるよう支援します。
(例)学生による消防団と防犯団体による地域活動、クラブ活動として地域の防災活動に参加する。
:課題解決型授業で減災福祉を学んだ学生がチームを結成し、継続して地域を訪問する。

就職・進学

Research

3つのまちづくりに関する課題について、地域・行政・大学が連携し、学術的な共同研究を実施しています。学内審査により、2016年度までに40件の研究案件を採択しました。(詳細は、本学COCC事業ホームページでご確認ください。)

【例】

- 陶磁産地の文化や産業資源を活かした交流促進事業
- 多文化共生を通じた国際社会学教育プログラムの開発
- 地域の子どもの体力向上、身体活動量増加、多様な運動経験確保を目指す実践
- 健康運動教室の地域展開

Social Contribution Activity

地域活動

地元の祭りやイベントへ学生や教職員が参加し、地域住民との交流をはかります。

市民向けイベント

3つのまちづくりをテーマに、地域住民参加型の大学主催イベントを開催しています。

市民向け講座

「名古屋まちなかカフェ講座」など、地域の皆さまに向けたさまざまな講座を開講しています。

公開講演会

本学の教育研究活動を反映した地域課題に関する講演会やセミナーを実施しています。

高大連携事業

プロジェクトベースの連携を、本学学生や留学生も関与して進めています。

高校での模擬授業

地域との連携を深める中で、高校での模擬授業に関わる教員数を増加させていきます。

System

事業推進体制

大学内	行政
COCC推進会議 PDCAサイクルを実施	
名古屋キャンパス委員会	
瀬戸キャンパス委員会	
地域志向型カリキュラム編成委員会	地域
地域志向型研究推進委員会	●住民 ●商店街 ●NPO ●企業等

教育効果の評価体系

QOCC評価委員会による総合評価

COCC推進委員会 自己評価	外部評価委員会 外部評価
学生の評価委員会	

Students' voice 学生の声

定期イベントで地域の人々に活気を与える

僕には熱田区に住んでいる祖父がおり、退職後の生活について「周りにいる近い年代、同じ年代の人と知り合う機会が少なくて寂しい」と聞いたことがありました。そこで、まちづくり提言コンペにて、大学や、学生が主体となってスポーツや文化的な交流の場を設けることで、様々な年代の地域住民がつながりを築くきっかけを作る計画を考案しました。住民同士が知り合い、気遣う機会が増えるだけでなく、大学をより身近に感じてもらうことで、より愛着のある住みやすい街にできると考えたからです。基礎セミナーの授業は、考えを現実的なものに近づけるチャンスを与えました。まちづくり提言コンペを通して、広い視野を持って誰がどんなニュースを持っているかを考えることの大切さを学び、これからもこの様な取組に貢献していきたいと思いました。

外国語学部 丹羽 啓太

「まちづくりマイスター」認定プログラム

まちづくりに関する科目単位の修得や外部資格を取得した学生のうち、一定の基準を満たした者を「まちづくりマイスター」として認定しています。

▼初級まちづくりマイスター(地域商業・歴史観光・減災福祉)
＜3つのまちづくり分野ごとに認定を行います＞
まちづくり学 + まちづくり演習

▼上級まちづくりマイスター(地域商業・歴史観光・減災福祉)
まちづくり学 + まちづくり演習 + 上級まちづくり演習⁽¹⁾ + 外部資格⁽²⁾

上級まちづくりマイスター認定学生より

現代社会学部 栗木 悠多 (減災福祉分野)
授業を通して他の学年や学部の人たちと関わり、自分の価値観を広げることができました。地域の現状なども学べ、減災やまちづくりにより興味を持つことができました。

スポーツ健康学部 岡部 未波 (減災福祉分野)
今まで関わりのなかったまちの人との交流で、様々な意見を聞き、積極的に自分の意見を話したことは、とても良い経験になりました。

(1) 履修記録において、「(1) 履修記録(履修)」(2) 外部資格(地域商業・歴史観光・減災福祉)特定3級資格取得
＜歴史観光＞「観光まちづくり人材育成プログラム(COCC事業)」への参加
＜減災福祉＞「防災まちづくり人材育成プログラム(COCC事業)」への参加
＜地域商業＞「まちづくり人材育成プログラム(COCC事業)」への参加

Topic 社会人の学び直しをサポートします!

2007年の学校教育法改正により、大学等における「履修証明制度」が創設されました。この制度を活用し、本学の「まちづくり」に関連する授業科目を体系的に編成した「まちづくり新修プログラム」を2015年度に新設しました。「地域経済を元気にしたい」「地域の歴史をもっと世の中に届けたい」「地域の防災を強化したい」など「まちづくり」に興味のある社会人の皆さん、本学学生と一緒に、学びながら地域を盛り上げていきましょう!